



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2137号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 西本 和夫 幹事 宇田川 茂



広重版画より 三島 朝霧

第2200回例会

2018.3.15晴

司 会

花房孝光君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 鈴木郁夫君

会長挨拶

副会長 佐野宏三君

皆さんこんにちは、三島大社の桜のつぼみもふくらみ始め開花が待ち遠しいこのごろです。

さて苗栗ロータリークラブの創立47周年記念式典に明日から3班に分かれて総勢37名の会員と家族並びに清水町職員で参加してきます。毎回、熱烈歓迎を受けて「乾杯」「乾杯」と杯が進み最後はカラオケタイムになります。ここ数年苗栗を訪問するたびに時の流れを実感します。苗栗RCも毎年新会員が入会してきますが、彼らと言葉の問題でお互い親密な交流が出来ずにいます。年配の会員は日本語を話せますが、新しい会員は英語が堪能で日本語が通じません。お酒を酌み交わす「飲みにケーション」は出来ますが、言葉を交わす「コミュニケーション」は片言の英語、中国語や日本語の単語のみで名刺交換で終わってしまうことが度々あります。また若い会員は紹興酒よりウイスキーを好み、それも水割りではなくてストレートで「乾杯」私には胃腸薬が必需品です。

苗栗ロータリークラブとの歴史を紐解くと昭和57年4月に当クラブ創立10周年式典において姉妹クラブ締結式を行い以来36年間、また交換中学生の派遣事業についても昭和61年3月苗栗ロータリー創立15周年時に計画されて、翌年の昭和62年3月に第1回交換中学生が三島から3名派遣されています。以来32年間で約200名の中学生が交互に海を渡っています。両クラブの会員の理解と協力がなければ36年間もこのような密度の濃い交流が続いていないと思います。なかでも当クラブの遠藤正幸バスト会長がいつも苗栗クラブとの

連絡やホテル、バスの手配等、非常にきめ細かく丁寧な予定表を作ってください、式典参加者はいつもおんぶにだっこでも感謝しております。遠藤さんがいたからこそ、苗栗と長年にわたって毎年交流が続いていると言っても過言ではないと思います。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	35/39	89.74%	36/39	92.31%
今回	40/41	97.56%	会員総数	47名

欠席者 木村君

幹事報告

幹事 宇田川茂君

①訃報 第2代会長で、現名誉会員であります小野金彌さんが3月11日ご逝去されました。(満94歳) 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

「お別れ会」 1・日時 4月20日(金)午後1時～午後3時

2・式場 三島市民文化会館大ホール

②本日の卓話は矢岸 克行さんです。よろしく願いいたします

③今月中に皆様に「臨時総会の通知」と「今後3か月間の例会プログラム予定表」をお送りいたします。

決議事項

第1号議案 本クラブ例会は月2回以上開催する

第2号議案 入会金50,000円は現行通りとする

プログラムについては、変更点がございましたのでお送りします。再三の変更をお許しください

④来週の例会場は米山記念館となります

2017～2018年度
国際ロータリー会長
イアンH.S.ライズリー

ロータリー：変化をもたらす

おめでとう

会員誕生日 野田君
入会記念日 川真田君
奥様誕生日 米山君
結婚記念日 須田君、野田君

スマイルボックス

◆ 窪田君、展示会が重なりなかなか出席できませんでした。展示会はまあまあの売り上げがありほっとしています。スマイルさせていただきます。

卓 話

世界で一番古い国

矢岸克行君

皆様、世界で一番古い国家はどこだと思いますか。考えてみてください。

資料によるとアメリカの情報機関CIAが毎年発行する「ザ・ワールド・ファクトブック」には世界268の国家やその他の地域の諸情報のひとつとして国家の成立時期が記載されています。その中で成立時から現在まで一度も滅びる事なく継続している「世界最古の独立国家」は日本です。

神武天皇から9代の開化天皇までは実在しない、つまり「神話」というのが定説のようです。それ以後は10代の崇神天皇からは実在と系譜が明確なようです。そこから計算した日本の歴史は最短で約1500年となるそうです。

他の国は歴史が長くても現在の国の形と違っているのがほとんどだそうです。日本はやはり歴史のある国、すばらしい民族なのです。しかし残念なのはその輝かしい歴史の中で近代史が抜け落ちているのです。江戸から明治初めまではテレビでも本でもたくさん取り上げますが、それ以後の歴史については残念ながらふれられていません。いや、あえてふれないのかもわかりません。何故でしょう。

話せば長くなりますので、この話は次回に機会がありましたら。この次は台湾と、そして日本の話を。

ROTARY NEWS

2018-19年度 ラシン国際ロータリー会長のテーマ

国際ロータリーの次年度会長バリー・ラシン氏(パハマ、イーストナッソー・ロータリークラブ所属)がロータリーの未来のビジョンについて語りました。

ラシン会長エレクトは、米国サンディエゴで開催されたロータリー国際協議会で、次期地区ガバナーに向けて2018-19年度テーマ「インスピレーションになろう」を発表。「何か大きなことに挑戦しようというインスピレーションを、クラブやほかのロータリアンに与えてください。自分よりも長く、後世にも生き続けるものを生み出すために、行動を起こす意欲を引き出していただきたいのです」ロータリーの新しいビジョン声明は、次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」。ラシン氏は、このビジョン声明の意義を強調し、声明がめざすロータリーを実現するためにリーダーシップを発揮するよう求めました。ビジョンの実現にはまず組織づくりが必要だと、ラシン氏は強調します。「ロータリーは第一に会員制組織です。ですから、奉仕活動を通じてより良い世界を築きたいと願うなら、まずは会員を大切にしなければなりません」

ポリオ撲滅の進展

ロータリアンにとってインスピレーションの源の一つはポリオ撲滅活動である、とラシン氏は述べ、過去30年間に成し遂げた顕著な進展に触れました。1988年には野生型ポリオウイルスによって推定35万人が身体まひを患っていましたが、2017年に報告されたポリオ症例数はわずか21件。「今がポリオ撲滅活動の正念場」と語り、「新規症例があるたびに、それが史上最後の症例となる可能性がある」と述べました。ただし、最後の症例が報告されても仕事が済んだわけではないと、ラシン氏は強調します。「撲滅認定委員会がポリオ撲滅を正式に認定するまで、すなわち3年間、川や下水、または人の体内からポリオウイルスが一切発見されなくなるまで、ポリオ撲滅活動は終わらないのです。……それまでは、今行っているすべてのことを続けていかなくてはなりません」。こう述べたラシン氏は、予防接種活動やサーベイランス(監視)に引き続き力を入れていくことの重要性を訴えました。

環境の持続可能性を守る

さらにラシン氏は、近年、ロータリーが人道的活動における「持続可能性」を重視していることに触れ、環境汚染や気候変動という厳しい現実をロータリアンが認識すべきであると述べました。祖国パハマの土地の80パーセントが海抜1メートル以下であることも指摘。2100年までに海面が2メートル上昇すると推定されており、「私の祖国は、ほかの多くのカリブ海諸島や、世界中の沿岸都市や海抜の低い地域と同様、50年後にはなくなってしまう」と懸念します。ロータリーのすべての奉仕活動を、より大きなグローバルなシステムの一部としてとらえるよう、ラシン氏は呼びかけました。これは、次期地区ガバナーが、クラブだけでなく、地域全体にとってのインスピレーションとなる必要性を意味する、と述べます。「持続可能な活動成果をもたらし、世界をより良くしたいと私たちは願っています。ロータリー内部やロータリアンのためだけでなく、世界全体のあらゆる人たち、あらゆる世代のために、私たちにできることがあるのです」

(週報担当:米山 寛)